

ここがヘンだよ、日本の研究環境

How can we improve our research environment?

2018年のノーベル物理学賞は、1963年以来の女性受賞者という嬉しいニュースが入ってきました。世界に目を向けると、活躍している女性研究者・技術者は少なくありませんが、日本では依然として男性優位な研究環境にあり、ワークライフ“アン”バランスな状況もなかなか改善されません。本シンポジウムでは、多くの女性や外国人研究者・留学生の育成に携わり、そして協働してきた研究者の視点から、日本の研究環境の課題を指摘してもらいます。NEWMAP Coffee Breakやパネルディスカッションでは、全員参加型の意見交換を行います。奮ってご参加ください！

3月10日（日） 13：00～17：45

東京工業大学 大岡山 西2号館 4F W242

入場無料・一般公開

プログラム

- 13：00～13：05 はじめに 小川 賀代（男女共同参画委員会委員長）
- 13：05～13：10 会長挨拶 財満 鎮明（応用物理学会会長）
- 13：10～13：55 基調講演
「名古屋大学における女性研究者活躍推進に向けた取り組みと課題」
高橋 雅英（名古屋大学副総長）
- 13：55～14：40 基調講演
「私の歩んだ道、溶液化学を基軸にしたナノ強誘電体の開発」
加藤 一実（産業技術総合研究所理事）
- 14：40～15：10 講演
「日本とフィンランドにおける『働き方』の違い ～社会の背景や価値観から考える～」
坂根 シルック（フィンランド社会文化研究家）
- 15：10～15：40 講演
「海外へ行くと研究が捗る？ ～研究の効率を上げる環境とは～」
根本 香絵（国立情報学研究所教授）
- ☕ 15：40～16：10 NEWMAP Coffee Break ☕
- 16：10～17：45 パネルディスカッション
司 会：小川 賀代
パネリスト：財満 鎮明、高橋 雅英、加藤 一実、
坂根 シルック、根本 香絵

企画：応用物理学会 男女共同参画委員会